

## 授業概要

本講義では、①社会科の歴史や特質及び様々な教育観について検討し、②実際に授業づくり（教材研究）を体験することで、これまで社会科授業を受ける側だった立場から、社会科授業について考え、実践していく立場へと転換していくことを目的とする。具体的には、①社会科とはどのような教科であり、この私たちの社会においてなぜその教科を教えなければならないのか、その特質と意義について講義し、また、社会科の授業を形づくる教育観にはどのようなものがあるのか各事例を比較・検討しながら、自らの教育観を再構成していく。そうした点を踏まえて、②実際に大学周辺地域のフィールドワークや文献調査、その他様々な調査を実施しながら、この地域で考えるべき問題や課題を明らかにし、社会科単元プランを構想していく。

## 授業計画

第 1 回	社会科とは何か——これまでの被教育体験のふりかえり①
第 2 回	社会科の歴史と特質——なぜ社会科を教えるのか？
第 3 回	さまざまな社会科教育観①——教養教育としての社会科
第 4 回	さまざまな社会科教育観②——科学教育としての社会科
第 5 回	さまざまな社会科教育観③——人間教育としての社会科
第 6 回	さまざまな社会科教育観④——市民教育としての社会科
第 7 回	よりよい社会科授業とは？——ここまでの講義のふりかえり②
第 8 回	社会科学習指導案の書き方——教材研究はどこに反映されるのか？
第 9 回	身近な地域の調査①——地域の概要を把握する；ICT や地図の活用
第 10 回	身近な地域の調査②——大学周辺地域のフィールドワーク
第 11 回	身近な地域の調査③——副読本・図書館・地域の諸資料の活用
第 12 回	身近な地域の調査④——地域の問題と社会科カリキュラム
第 13 回	調査内容を社会科単元にすり合わせる①単元のストーリーと問いの構成
第 14 回	調査内容を社会科単元にすり合わせる②評価方法の検討
第 15 回	地域調査の社会科教育的な課題の探求——グループの発表とふりかえり③
第 16 回	筆記試験

## 到達目標

- ・社会科の歴史を踏まえて、社会科の特質について説明することができる。
- ・自らの社会科教育観について、様々な教育観との比較・検討を通して説明することができる。
- ・身近な地域の調査の体験を通じて、調査内容と社会科教材化の関係性について考察することができる。

## 履修上の注意

本講義は、社会科授業の受け手の立場から社会科授業を実践していく立場への過渡期の講義である。講義や調査活動によってその二つの立場を行き来することになると思うが、各回での課題やふりかえりなどを通して、児童生徒として、大学生として、社会科教師として、大きく三つの立場を体験してほしい。

なお、フィールドワークや大学外で調査をすることも考慮しておくこと。

## 予習・復習

プリントに参考文献を示していくので講義内容を深めるために読んでみてください。また、地域調査を実施する中で出てくる必要な情報を適宜収集・整理することで、より高い精度の調査にすることを望みます。

## 評価方法

- ・筆記試験：40%
- ・地域調査及び社会科単元プラン、発表、討議における活動：30%
- ・ふりかえりシート、コメントペーパー：30%

## テキスト

基本的には適宜プリントを配付する。

参考文献：文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』日本文教出版。  
大澤克美（2019）『小学校社会科教師の専門性育成（第三版）』教育出版。  
社会認識教育学会（2019）『小学校社会科教育』学術図書出版社。  
原田智仁（2020）『社会科教育のルネサンス—実践知を求めて—』教育情報出版。